

5月12日(日)に第18回通常総会が行われました

(第1号議案) 2023年度活動では

1) 訪問実績 延べ人数 2023年度 4月～3月まで

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	382	401	339	280	352	312	337	288	318	309	302	322	3942
介護	127	136	135	133	144	130	146	143	142	134	123	131	1624

令和1年4119人、令和2年4283、令和3年4576、令和4年度4311

2) 訪問活動 3月末 (前年度と比較)

現在の利用者状況の総数は50名(53) 呼吸器使用7名(8)、吸引器使用者は10名(13)、HOTは5名(3)、胃ろうは6名(11)、尿留置カテーテル3名(3)であり、医療依存度の高い利用者は変わらず多い。認知症の一人暮らしや高齢の二人暮らしの依頼は増えている。6月で常勤1名退職あり。その後利用者は減少している。

3) 雇用状況3月末

- ・現在常勤は3名。(6月30日で1名退職)
- ・非常勤の看護師は現在5名。(1名は労働時間数が増えた)
- ・作業療法士(非常勤)現在は1名。臨時で勤務。
- ・事務職員(非常勤)1名。全職員は10名。

<事業成果と次年度に向けて>

1) 研修事業

- ・出前コンサートは現在休止中。どのようにしたらできるか検討していく。
- ・ヘルパーへの吸引指導・胃ろう指導の依頼は減っている。しかしヘルパーの変更もあり、継続して指導が必要である。
- ・当法人の「ほっと介護教室」では、今まで管理者がカンファレンスで相談の上決めていた。研修担当者を決めたので、職員の研修と共に介護教室も検討していく。

2) 訪問看護事業

① 災害時の対応

カンファレンスで災害時の対策を話し合い、担当者を決めて整理した。年に2回6月と12月見直しを行なうことにした。

② 新型コロナウイルス・インフルエンザウイルスの対策

- ・マスクや手袋着用を義務化し感染対策に努めた。インフルエンザも流行が休むスタッフもいたが協力して対応できた。今後もマスクや手袋の対応に努めたい。

③ 人材不足と育成について

- ・ 6月に常勤のスタッフが辞めた。今年度は長期に訪問していた利用者様が亡くなったり施設入所などもあり余裕があったが、令和6年度は常勤のスタッフを増やして緊急コール対応の充実を目指したい。
- ・ 今年も充分にできたとはいえない。今年度は人材育成の検討、業務上の役割分担の充実などやりがいを持てるように働きかける。
- ・ カンファレンスなどである程度、共有化はできているが不十分さを感じる。職員の気持ちへの理解や、患者様の内面的な問題などを深めるまでに至っていない。次年度は事例検討の仕方などを学び深めていきたい。
- ・ OTとの連携により利用者の生活の質を向上できている。継続しておく。

④ 経営状況について

7月、12月の賞与と3月の期末手当は常勤に渡せた。非常勤に今年度も12月に賞与を出せた。3月は手当金を出した。

⑤ 訪問看護の質の向上

- ・ 研修の結果報告会や事例検討会を計画的に開催
研修に参加した場合は学びの共有ができたとはいえない。難しい利用者が多いため、悩んでいる事例は検討会などを開催して共有して一緒に考える機会にしたい。研修担当を決めたため今年度は時期を決めて行いたい。訪問看護の経験が増した場合のやりがいなどを考えた研修に参加してもらおう。
- ・ 役割分担委員
昨年から非常勤も含めて役割分担を決めて行った。それぞれ空いた時間を活用して行った。来年度は委員を決めて委員会や研修の実施などを必ず行うことになりやらない場合は減算になることになった。
業務継続計画、感染症対策の強化、虐待防止の推進、セクハラ対策強化を全員に協力してもらい全員がどこかの役割になることになった。

⑥ コミュニケーション

昨年も全スタッフに面接事前シートを書いてもらい面接した。スタッフとのコミュニケーションにもなるため、今後も継続していく。

⑦ 広報活動

HPについて、ブログは結構読まれている。このことで法人・ステーションの理解につながりPRができている。全員で分担して書くことになっているが滞っている傾向がある。今後早めにブログが書けるように調整していく。昨年はできなかったが今年度こそは当ステーションで行っている看護の紹介や今のトピックスなども紹介できるように考えたい。担当を決めたため今後も継続して行う。
ほっとステーションのパンフレットにQRコードを入れて行く。

(第2号議案) 2022年度決算報告(収支計画書・貸借対照表)

資料…収支決算書、貸借対照表参照

(第3号議案) 2023年度活動案報告(事業計画書)

- ・ 研修係を追加し、利用者マニュアル担当も担当者新たにす。
- ・ アクシデントインシデントを記録して共有していった方がよい。

(第4号議案) 2023年度 収支予算書

☆昨年度より会費は1000円とする。

一口メモ

手軽に買える介護用品

百円ショップに介護用品が売られているのを知っていますか？

- ◇ 使い捨てエフロン（8枚）
- ◇ 消臭持ち手付ポリ袋（大人のおむつ用、10L×25枚、20L×20枚）
- ◇ 消臭ポリ袋（大人のおむつ用、40cm×30cm×20枚、35cm×25cm×24枚）
- ◇ 大人用おしりふき 75枚
- ◇ 大人用からだふき 75枚
- ◇ 介護用品ストローコップ
- ◇ うがい受け
- ◇ 杖ピタッと
- ◇ フォリオ手付きマグホワイト
- ◇ フランレンジ食器浅型ボウル（14.5cm、ベージュ）
- ◇ フランレンジ食器ボウル（16cm、ベージュ）
- ◇ 滑り止めシート 70×80cm



引用：<https://www.daiso-sangyo.co.jp/item/18621>

ベッド上で洗髪や陰部洗浄する時にはペットシートが便利です

45×60cmくらいの大きさに安いものは100枚千円程度で売られています

総会終了後 14:00～16:00 まで「高齢者の住まい事情」と云うテーマで、高齢者住まい相談室室長の松田朗氏に講演をしていただきました。高齢者が安心して暮らせる住まい探しをお手伝いしてくれます。今後の自分の暮らし方を考える良い機会になりました。

資料を添付して良いとの許可を得ましたので講演会の資料も次に添付します。

何か困ったことがあったら

（株）こたつ生活介護 高齢者住まい相談室こたつの松田朗様に電話してもよさそうです。

立川市一番町 6-29-8

電話0120-605-079

高齢者の住まい事情

居住支援法人の取組み

株式会社こたつ生活介護
高齢者住まい相談室こたつ
室長 松田 朗

団体名：株式会社こたつ生活介護（2008年7月設立）
事業所：高齢者住まい相談室こたつ（2017年7月開設）
所在地：東京都立川市一番町6-29-8
居住支援法人指定：2018年6月 東京都知事 第10号
対象者：高齢者
地域：立川市・武蔵村山市・昭島市・他、周辺市
実績：延べ相談件数772件／延べ入居件数283件
宅建業：東京都知事（2）第102651号
関連法人：一般社団法人住まいと暮らしの相談室
一般社団法人高齢者住まいアドバイザー協会

お話する内容、

1. 高齢者の住まい事情
2. 居住支援法人の取組み
3. 空き家問題
4. 質疑応答

1. 高齢者の住まい事情

④ 親族との関係性の問題

- 配偶者や子供からの虐待（DV）
- 息子の嫁や娘の夫との関係性の悪化
- 経済的搾取
- 親亡き後の障がいがある子供の心配

⑤ 契約更新時の保証人がいない問題

- 保証人の高齢化や死亡
- 子供がいない又は疎遠
- 頼れる親族がいない

2. 居住支援法人の取組み

居住支援法人とは

「住宅セーフティネット法」に位置付けられた高齢者や障がい者など、ご自身で住まいを確保する事が難しい方に対しその方のニーズに合った住まいを探し、入居に至るまでを支援し、入居中の見守りや生活支援体制を整えるため、行政や地域の社会資源と連携して支援を行う都道府県知事が指定した法人のこと。

高齢者が抱える住まいの問題

- ①心身の状況変化の問題
- ②立退き問題
- ③経済的問題
- ④同居人との関係性の問題
- ⑤契約更新時の保証人がいない問題

①心身の状況変化の問題

- ・ 階段の昇り降りが困難
- ・ 在宅生活の限界
- ・ ごみ屋敷

②立退き問題

- ・ 建物の老朽化
- ・ 家賃滞納
- ・ 近隣トラブル

③経済的問題

- ・ 配偶者の死亡や離婚による収入減少
- ・ 退職や廃業による収入減少
- ・ 預貯金の減少（家はあるがお金がない）
- ・ リースバックの問題

地域包括ケアシステムにおける居住支援法人の役割



居住支援法人の取組み

高齢者住まい相談室こたつの
パンフレット参照

3.空家問題

空き家問題

『活き家』の
パンフレット参照